



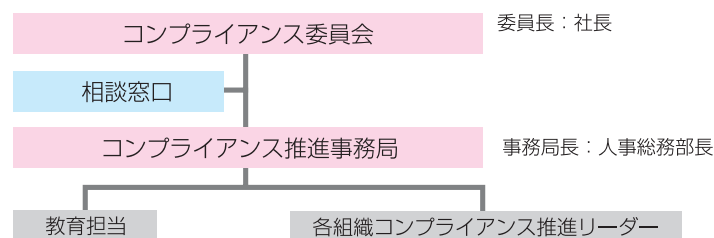
コンプライアンス★1

コンプライアンス体制

2006年4月、「行動宣言」ならびに「コンプライアンスプログラム」を定め、法令遵守はもとより社会規範を尊重し、企業倫理に則った行動をとることを指針とするよう社内体制を整備しました。

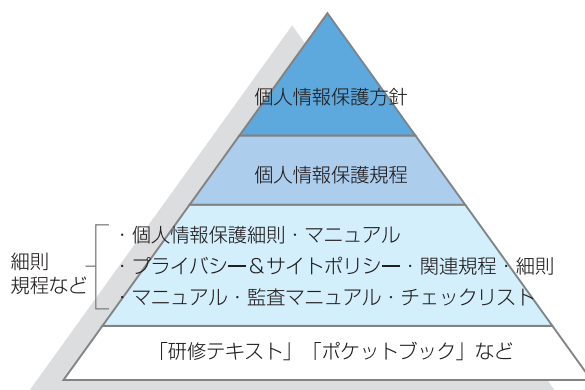
また、2008年7月には内部監査室、2009年4月には内部統制室を設置し、社内モニタリングを強化いたしました。今後とも社会から一層信頼されるようコンプライアンスの推進に取り組んでまいります。

▼コンプライアンス推進体制図



個人情報保護

▼大塚化学個人情報保護コンプライアンスプログラム(個人情報保護規程体系図)



大塚化学では、お客様、従業員等、さまざまな個人情報を取り扱っているため、「個人情報保護推進体制」の整備を図り、個人情報保護に関する各種規程・マニュアル等を制定、これに基づき従業員一人ひとりが個人情報の重要性を認識し、適正な取り扱いを行っています。

また、保有個人データに関する本人からの開示等の要求・苦情等に迅速かつ適切に対応するために、「個人情報相談窓口」を設置しています。

障害者雇用

障害者の雇用については2006年度より積極的に取り組みをすすめており、法定雇用率1.8%に対して、大塚化学の2009年3月末日現在の障害者雇用率は2.45%となっています。

また、行政機関の要請に応じて就職を希望される障害者に対する職場見学なども受け入れています。

2009年3月末:法定雇用障害者数 12名に対して、雇用者数 17名

取り組み内容

大塚化学が、これまで以上にお客さまから信頼され、選択される企業としてあるために、適正な事業活動の推進とともに、法令や倫理の遵守が不可欠です。大塚化学は役員および従業員一人ひとりがしっかりとした遵法意識と倫理観を持ち、その意識と行動をとるために「コンプライアンスプログラム」に基づく以下の取り組みを行っています。

実施月	取り組み内容
4月	新入社員研修
6、9、12、3月	グループコンプライアンス事務局会議
1~5月	コンプライアンス社員研修
1月	コンプライアンス委員会会議



労働安全衛生

大塚化学は「みんなで達成ゼロ災！」のスローガンのもと、社員の安全と健康を確保するために、全員参加で安全衛生・防災活動の継続的な改善を実施しています。

■安全管理の取り組み

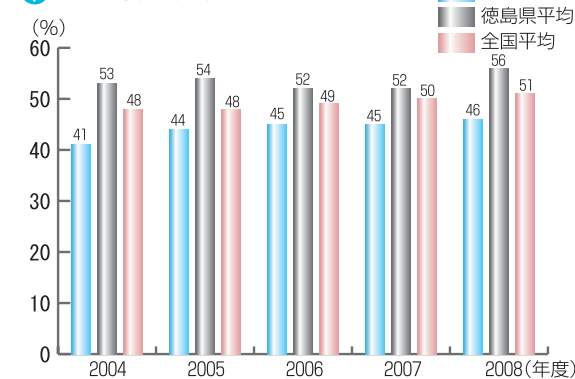
経営トップからの安全衛生の取り組み宣言を受け、通期の安全衛生管理計画を策定し、職場の適切管理にはじまり作業・機械設備の整備や安全衛生教育の充実等を図り、業務上疾病及び業務上災害の防止に取り組んでいます。

■健康管理の取り組み

社員の健康チェックと疾病予防のための一般健康診断、特殊作業従事者の特殊健康診断等を定期的実施しています。また、産業医の意見聴取においては有所見者の事後措置を確実に実施し健康増進に期しています。

一般健康診断は、毎年4月に定期健康診断、10月に深夜業務従事者健康診断を実施しています。その他、特殊業務従事者には有機溶剤等、特定化学物質等、電離放射線、歯科、有害光線、じん肺等各種法令に基づいた適切な健康診断を実施し職業性疾病の予防に努めています。

▼一般健康診断 所見率



定期健康診断

■快適職場環境

各事業所にある食堂での食事やカフェテラスでのひとときは、社員の楽しみの一つです。評判のランチメニューの他、徳島事業所では行事や企画に応じて、パーティや本格フレンチの特別食なども利用されています。



★1 コンプライアンス

一般的に法令遵守と訳されます。法律や条約、制度等の社会的取り決めを守ること、さらに、その背後にある精神まで守り、実践することを意味します。

大塚化学は、各事業所において地域に根ざした取り組みを行うことで地域社会に貢献するとともに、皆さまとのコミュニケーションを通じ、大塚化学の事業活動についてのご理解、信頼をいただけるよう努めています。

■ 市民や学生との交流

一般県民対象の「とくしま環境学講座(とくしま環境科学機構主催)」での現地研修として、あるいは地元の高校や大学(薬学部)の講義の一環として、事業所の各種現場見学や体験学習の機会を提供致しました。



■ CO2削減 交通社会実験に参加

産学官民の協働型環境活動の一環として、自動車通勤からのシフトを目指した交通社会実験(行動調査とシャトルバスを利用した通勤)に参加しました。
(2008年12月)



■ とくしまマラソンに出場

昨年に続き2回目の開催となった「とくしまマラソン」(参加者4402名)に市民ランナーとして大塚化学からも4名が出場し、吉野川沿いのきれいな環境の中で健脚を競いました。
(2009年4月)



■ 清掃ボランティア活動

社会貢献活動の一環として各事業所周辺地域の清掃活動を行っています。

松茂事業所周辺と月見ヶ丘海浜公園 ▶



▼ 徳島事業所周辺と国道11号線、今切港湾



■ 阿波踊りへの参加

大塚化学は、盛夏の一大イベントとして開催される阿波踊りに毎年参加しています。大塚食品(株)や大塚倉庫(株)の社員と共に編成している「大塚はつらつ連」の洗練された踊りは、当地のみならず顧客企業のイベントや海外でも披露することがあり、徳島の文化活動として楽しく取り組んでいます。





徳島事業所



- 所在地 徳島県徳島市川内町加賀須野463
- 創業開始 1969年(昭和44年)
- 従業員数 395名(2009年3月現在)
- 事業内容 医薬品原料、化学品の製造及び研究開発

エネルギー使用量

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力(千kWh)※	52,186	48,973	46,821	46,681	40,227
重油(kℓ)	32,676	29,713	25,639	4,982	3,498
LPG(t)	1,508	1,570	1,589	1,977	1,405
都市ガス(千㎥)※	—	—	1,775	22,342	20,919

※重油と天然ガス(都市ガス)は、大塚グループ各事業所への電気・蒸気製造のための使用を含みます。

廃棄物

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
発生量(t)	10,269	9,785	12,641	13,249	12,530
排出量(t)	2,861	2,585	3,304	3,561	3,448
中間処理量(t)	1,564	1,548	2,247	2,172	2,404
リサイクル量(t)	651	523	574	627	640
最終処分量(t)	646	514	483	762	407

環境負荷データ

項目	単位	規制値			測定値					測定頻度	測定箇所	
		法規制	条例※1	公害防止協定	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度			
大気汚染	NOx	ppm	150	—	—	144	126	98	112	111	連続	ボイラー1、2、4号
	//	ppm	250	—	—	175	122	130	100	53 ^{※2}	毎年2回	焼却炉
	//	ppm	950	—	—	342	340	293	281	305 ^{※3}	連続	ディーゼル機関2基
	SOx	m ³ /h	—	—	39	5.53	5.37	7.01	4.32	2.36	連続	工場全体
	ばいじん	g/m ³	0.15	—	—	0.003	0.017	0.005	0.012	0.003	毎年2回	焼却炉
水質汚濁	COD	mg/l	—	—	40(30)	9.2	6.1	8.5	5.9	7.5	連続	最終放流水
	BOD	mg/l	—	78.4(62.5)	—	8.2	9.2	12.3	3.8	6.5	毎週3点	
	SS	mg/l	—	77.5(61.6)	—	5.8	3.9	3.7	3.6	3	毎日	
	pH	—	5.8~8.6	—	—	6.92	6.96	6.94	7.16	7.20	連続	
	T-N	mg/l	120(60)	—	—	13.0	6.9	6.4	5.6	5.7	連続	
T-P	mg/l	16(8)	—	—	0.63	0.59	0.23	0.12	0.37	毎月2回		
騒音	朝(5:00~7:00)	dB	—	—	<60	56	56	51	52	52	毎月1回	敷地境界線
	昼間(7:00~19:00)	dB	—	—	<65	56	57	56	55	55	毎月1回	
	夕(19:00~22:00)	dB	—	—	<60	54	57	54	55	55	毎月1回	
	夜間(22:00~5:00)	dB	—	—	<55	54	53	52	53	52	毎月1回	

規制値:()内は、日間平均値
 測定値:大気汚染、水質汚濁(3月に測定した代表値を記載)
 騒音(3月測定値を記載)

※1 徳島県生活環境保全条例
 ※2 11月測定値
 ※3 ディーゼル機関稼働した2009年2月測定値

VOICE



徳島工場長
今村 義昭



徳島事業所では、医薬品原料、ブレーキパッドやOA・モバイル機器等に使用される機能性材料、ヒドラジン化合物、食品添加物の香料など多岐にわたる製品を製造すると共に、これらに関連する新規研究開発も行っています。一方で、同じ工業団地内で隣接する大塚グループ各事業所への用水・電気・蒸気の供給も行っています。現在はさらに、各工場に必要な蒸気を天然ガス(都市ガス)で製造し送気する体制を図り、CO₂削減に寄与できる取り組みを進めています。昨年来の世界的な厳しい経済環境の中にあっても、常に社会的責任、顧客への製品供給責任を念頭に、安全で安定的な操業を実現するべく、継続的な改善活動に邁進致します。

VOICE



Flexible support

資材部(徳島駐在)
小林 あゆみ



徳島・鳴門・松茂で事業活動する各工場での購買業務が円滑にいくよう、自慢の明るさと笑顔で対応し、柔軟なサポートができるように心掛けています。

鳴門事業所



- 所在地 徳島県鳴門市里浦町里浦字花面615
- 創業開始 1950年(昭和25年)
- 従業員数 122名(2009年3月現在)
- 事業内容 無機・有機化学品、肥料、農薬の製造及び農薬の研究開発

エネルギー使用量

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力(千kWh)	5,730	5,559	4,688	4,777	4,658

廃棄物

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
発生量(t)	1,698	2,025	1,668	2,002	1,687
排出量(t)	918	746	857	1,365	1,094
中間処理量(t)	776	623	754	1,189	915
リサイクル量(t)	74	104	80	153	144
最終処分量(t)	69	19	23	23	35

環境負荷データ

項目	単位	規制値			測定値					測定頻度	測定箇所	
		法規制	条例※1	公害防止協定	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度			
水質汚濁	COD	mg/l	—	—	40(30)	2	6.7	4.7	4.3	2.9	連続	最終放流水
	BOD	mg/l	—	82(101)	—	2.4	11.4	9.1	5.4	4	毎月1回	
	SS	mg/l	—	84(66)	—	3.2	3.9	4.8	3.6	4.2	毎日	
	pH	—	5.8~8.6	—	—	6.9	6.4	6.8	7.1	7.1	連続	
	T-N	mg/l	120(60)	—	—	3.28	3.37	2.59	3.48	1.66	連続	
	T-P	mg/l	16(8)	—	—	0.151	0.221	0.108	0.052	0.09	連続	
騒音	朝(5:00~7:00)	dB	—	—	<60	55.3	52.4	56.5	52.3	48.7	毎月1回	敷地境界線
	昼間(7:00~19:00)	dB	—	—	<65	59.4	58.9	58.2	58.7	56	毎月1回	
	夕(19:00~22:00)	dB	—	—	<60	51.2	55.3	55.6	43.3	48.5	毎月1回	
	夜間(22:00~5:00)	dB	—	—	<55	52.9	54.8	54.2	54.4	53	毎月1回	

規制値:()内は、日間平均値
 測定値:水質汚濁(3月に測定した代表値を記載)
 騒音(4月測定値を記載)

※1 徳島県生活環境保全条例

VOICE



鳴門工場長
高尾 久



鳴門事業所は、無機化学品、医薬中間原料、有機化学品、肥料及び農薬各製品の製造と農業関連の研究開発を行っています。環境への取り組みとして、1976年から徳島県ならびに鳴門市と公害防止協定を締結、2005年9月8日にISO14001の認証を取得し、大塚グループ鳴門工場各社と共に地球環境・地域社会への影響を常に配慮した管理活動を推進しております。大気へのVOC規制への対策や省エネルギー活動として、昨年省エネルギー推進委員会を設置し、電力・熱等のエネルギー使用削減・温室効果ガス排出量削減に積極的に取り組んでいます。また、事業所の従事者への安全衛生管理、無災害継続への高揚に励んでいます。

VOICE



改善活動展開中

生産本部 エンジ・設備課 係長

花岡哲也
阿部高美



1950年より操業している鳴門工場の中には経年設備もありますが、各職場での自主保全活動や計画的なメンテナンスを確実に実施しています。これからも地域社会の発展に貢献できる工場として、工場全員で環境及び安全を第一に配慮した安定操業への改善提案・計画・実行に取り組んでいきます。



- 所在地 徳島県板野郡松茂町豊久字豊久開拓139-40
- 創業開始 2000年(平成12年)
- 従業員数 40名(2009年3月現在)
- 事業内容 医薬品中間体、プラスチック成形材料製造

■ エネルギー使用量

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力(kWh)	8,916	8,153	7,320	4,645	8,438
重油(kℓ)	1,520	1,002	875	363	1,239
LPG(t)	121	77	79	56	31

■ 廃棄物

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
発生量(t)	4,835	3,904	4,593	2,136	4,904
排出量(t)	339	306	291	227	451
中間処理量(t)	37	44	91	52	270
リサイクル量(t)	0	21	29	36	58
最終処分量(t)	302	241	171	139	123

■ 環境負荷データ

項目	単位	規制値			測定値					測定頻度	測定箇所	
		法規制	条例※1	公害防止協定	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度			
大気汚染	NOx	ppm	250	—	—	55	116	69	65	69	連続	焼却炉
	SOx	m ³ N/h	5.06	—	—	0.0123	0.0037	0.0115	0.0094	0.027	毎年2回	
	ばいじん	g/m ³ N	0.15	—	—	0.027	0.019	0.01	0.028	0.023	毎年2回	
水質汚濁	COD	mg/l	—	—	20	2.2	2.7	3.2	2.2	3.7	連続	最終放流水
	BOD	mg/l	—	—	20	2.2	2.6	0.9	0.7	0.9	毎月2回	
	SS	mg/l	—	—	20	1.2	0.4	0.7	0.4	1.1	毎月2回	
	pH	—	—	—	6.0~8.5	7.4	7.4	7.3	7.4	7.5	連続	
	T-N	mg/l	120(60)	—	—	1.2	0.5	2.1	2.6	1.7	毎月2回	
騒音	T-P	mg/l	16(8)	—	—	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	毎月2回	敷地境界線
	朝(5:00~7:00)	dB	—	—	<65	49.8	55.1	53.2	50.8	52.2	毎年1回	
	昼間(7:00~19:00)	dB	—	—	<70	49	53.9	54.2	54.6	52.8		
	夕(19:00~22:00)	dB	—	—	<65	49.4	51.2	51.9	50.4	53.7		
	夜間(22:00~5:00)	dB	—	—	<60	49.7	51.4	51.3	48.4	51.4		

規制値：()内は、日間平均値
 測定値：大気汚染、騒音(4月測定値)
 水質汚濁(年平均値)
 ※1 徳島県生活環境保全条例

大塚化学では今後も、様々な環境課題に積極的に取り組み、継続的な環境活動を通じて、環境負荷の抑制に努めてまいります。※下記のデータは、従業員数、売上高を除き、主要3事業所を対象としています。

INPUT

■ 事業の概要

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
従業員数(人)	731	699	701	698	741
売上高(億円)	414.68	189.53	415.42	425.31	439

■ エネルギー使用量

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
電力(kWh)	66,832	62,684	58,833	56,103	53,323
重油(kℓ)	34,196	30,715	26,514	5,345	4,737
LPG(t)	1,629	1,647	1,668	2,033	1,436
都市ガス(kNm ³)	0	0	1,775	22,342	20,919

■ 水使用量

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
工業用水(km ³)	12,296	8,320	7,349	7,356	7,196
水道水(km ³)	3,246	2,359	2,196	2,267	2,108
合計(km ³)	12,358	8,380	7,411	7,403	9,304

■ 総物質投入量

	2005年	2006年	2007年	2008年
主原料(t)	88,200	50,200	45,700	39,300

OUTPUT

■ 大気汚染物質等排出量

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
CO ₂ (t/年)	118,226	106,816	99,374	79,808	75,453
ばいじん(t/年)	23	21	16	2.1	4.0
NOx(t/年)	428	326	310	62	83
SOx(t/年)	45	48	36	21	21

■ 総排水量

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
排水量(km ³)	12,638	8,645	7,751	7,303	7,518

■ 廃棄物等総排出量

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
発生量(t)	16,802	15,714	18,902	17,387	19,121
排出量(t)	4,118	3,637	4,452	5,153	4,993
中間処理量(t)	2,377	2,215	3,092	3,414	3,589
リサイクル量(t)	725	648	683	816	842
最終処分量(t)	1,017	774	677	924	565

■ 総製品生産量

	2005年	2006年	2007年	2008年
化学品総生産量(t)	38,300	16,600	11,400	13,500
農業肥料総生産量(t)	5,800	5,400	5,900	5,500
合計(t)	44,100	22,000	17,300	19,000

■ P R T R 制度対象化学物質の排出量・移動量

(t/年、ダイオキシン類のみng-TEQ/年)

対象物質名	2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		
	排出量(※1)	移動量(※2)	排出量(※1)	移動量(※2)	排出量(※1)	移動量(※2)	排出量(※1)	移動量(※2)	排出量(※1)	移動量(※2)	
2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	0	0	0	0	0	0	0.31	0	0.046	0	0.057
アンチモン及びその化合物	0	0	0.11	0	0	0	0.09	0	0.068	0	0
ジクワット	0	0	0.051	0	0	0.38	—	—	—	—	—
クレパール	0	0	1.4	0	0	0.40	0	12	0	8.8	0
キシレン	2.6	0	2.3	0.87	0	2.6	0.97	0	0.88	0	0.07
クロロホルム	4.3	0.31	0	5.3	0.04	0	2.1	0.018	0	3.0	0.005
1,4-ジオキサン	0.29	0.39	84	0.12	0.31	79	0.052	0.33	78	0.12	0.31
1,2-ジクロロエタン	8.5	0.08	32	6.7	0.09	42	7.2	0.064	52	6.6	0.062
ジクロロメタン	12	0.17	190	13	0.16	160	13	0.16	550	14	0.22
N,N-ジメチルホルムアミド	0	0	41	0	0	69	0	0	71	0	0
トルエン	2.7	0.13	37	0.25	0	9.1	0.18	0	101	0	0.003
ヒドラジン	0.16	0.89	9.5	0.15	0.47	7.8	0.16	0.27	8.86	0.18	0.19
フェノール	0.13	0	0	0.17	0	0	0.15	0	0	0.032	0
ホウ素及びその化合物	0	0.022	0.025	0	0.047	0.087	0	0.059	0.003	0	0.072
マンガン及びその化合物	0	5.9	2.3	0	3.7	6.5	0	4.0	6.9	0	5.0
ダイオキシン類	1.7	0.29	13	1.3	0.19	2.2	0.33	0.09	2.28	0.023	0.26

※1: 排出量:大気、水域へ排出された量
 ※2: 移動量:廃棄物に含まれて事業所の外へ運び出された量
 —: 取引量が少なく対象から除外した年度

ガイドライン記載項目	該当項目	該当頁	記載のない理由
BI-1 経営責任者の緒言	読者の皆様へ	1P	
BI-2 報告にあたっての基本的要件	環境社会レポートの基本的要件 会社概要	巻頭・2P	
BI-2-1 報告の対象組織・期間・分野			
BI-2-2 報告対象組織の範囲と環境負荷の補捉状況			
BI-3 事業の概況(経営指標を含む)	会社概要、企業理念、事業概要、製品概要	2~7P	
BI-4 環境報告の概要	会社概要、インプット・アウトプットの物質収支、省エネ・省資源への取り組み、サイトレポート・主な環境指標の推移	2・10・11 18・21・28 29・30・31P	
BI-4-1 主要な指標等の一覧			
BI-4-2 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	環境目標と実績	9P	
BI-5 事業活動のマテリアルバランス(インプット、内部循環、アウトプット)	インプット・アウトプットの物質収支	10・11P	
MP-1 環境マネジメントの状況	環境マネジメント	12・13・14 15P	
MP-1-1 事業活動における環境配慮の方針			
MP-1-2 環境マネジメントシステムの状況			
MP-2 環境に関する規制の遵守状況	—	—	今後記載を検討する
MP-3 環境会計情報	—	—	該当なし
MP-4 環境に配慮した投融資の状況	—	—	
MP-5 サプライチェーンマネジメント等の状況	省エネ・省資源への取り組み	20P	
MP-6 グリーン購入・調達状況	省エネ・省資源への取り組み	22P	
MP-7 環境に配慮した新技術、DFE等の研究開発の状況	省エネ・省資源への取り組み	20P	
MP-8 環境に配慮した輸送に関する状況	—	—	今後記載を検討する
MP-9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—	—	
MP-10 環境コミュニケーションの状況	地域社会との繋がり	26・27P	
MP-11 環境に関する社会貢献活動の状況	省エネ・省資源への取り組み	22P	
MP-12 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	—	—	
OP-1 総エネルギー投入量及びその低減対策	インプット・アウトプットの物質収支	10・11・18 31P	
OP-2 総物質投入量及びその低減対策	省エネ・省資源への取り組み 主な環境指標の推移		
OP-3 水資源投入量及びその低減対策			
OP-4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	省エネ・省資源への取り組み	20・21P	
OP-5 総製品生産量又は総商品販売量	インプット・アウトプットの物質収支、主な環境指標の推移	10・11・31P	
OP-6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	トピックス、インプット・アウトプットの物質収支 省エネ・省資源への取り組み	8・10・11・18・19P	
OP-7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	インプット・アウトプットの物質収支、化学物質管理	10・11・16・17P	
OP-8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	化学物質管理・主な環境指標の推移	16・17・31P	
OP-9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	省エネ・省資源への取り組み、サイトレポート 主な環境指標の推移	21・28・29・30・31P	
OP-10 総排水量等及びその低減対策	インプット・アウトプットの物質収支 省エネ・省資源への取り組み、主な環境指標の推移	10・11・18・31P	
EI 「環境配慮と経営との関連状況」を表す情報・指標	—	—	今後記載を検討する
SPI 「社会的取組の状況」を表す情報・指標	コンプライアンス	24・25P	

「環境社会レポート2008」の読者アンケート結果

2008年8月に発行した「大塚化学 環境社会レポート2008」のアンケートを通じて、大塚化学の環境保全・社会活動について、貴重なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

「大塚化学 環境社会レポート2008」の評価できる点、特に印象に残ったページ、改善点についてのご意見を以下に整理いたしました。

1. 評価できる点

(1) 読みやすさについて

- ・ 図、表、写真、イラストがきれいで豊富に組み込まれている点
- ・ わかりやすく、ていねいな説明や用語解説がある点

(2) 大塚化学の環境保全・社会活動について

- ・ 新技術から物流まで幅広く環境対策に取り組んでいる点
- ・ 社員コメントで一人一人の気持ちや目標が書かれている点
- ・ 外部や顧客の第三者監査状況を示している点

2. 特に印象に残ったページ

- ・ PICK UP! ダニサラバ (7P)
- ・ とくしま環境賞受賞 (8P)
- ・ 目標と実績 (9P)
- ・ インプット・アウトプットの物質収支 (10~11P)
- ・ 省エネ・省資源への取り組み (18P)
- ・ 地域社会との繋がり (26~27P)

3. 改善点について頂いたご意見

- ・ 文字を大きくしてほしい
- ・ 文章が多い
- ・ 紙が厚いので薄い方が良い
- ・ 環境活動のための費用を記載してほしい
- ・ 環境目標の内容をもう少し具体的に示してほしい

今後とも皆様から賜った評価・ご意見を参考にさせていただき、活動の一層の充実を図ってまいります。

